

## 北九州市環境ミュージアム展示改修事業について

### 展示改修の目的

八幡製鐵所関連施設の世界遺産登録やG7北九州エネルギー大臣会合が開催されたこの機会を捉えて、八幡東区東田地区の賑わいの創出と、市民により親しみやすい環境ミュージアムとするため、環境ミュージアムの展示内容を一部見直すもの。

### 展示改修の方向性の検討

市民団体や教育機関など、さまざまな分野の代表からなる「環境ミュージアムの展示を考える会」を設置し、構成員の意見を参考に改修の基本方針案を検討

※平成 28 年 7 月から 9 月にかけて 3 回実施

#### ◆「環境ミュージアムの展示を考える会」

有識者、教育機関、学生、施設管理者、市民団体・NPO、企業、  
国際研修機関、市民ボランティア、マスコミなどの代表 10 名で構成

意見交換の分野	主な意見
世界遺産に関連した情報発信と賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"><li>・個々の館ではなく、東田をどう見せるかという視点で考えるべき</li><li>・ドームシアターでビジュアル（映像関係）面を担ってもよい</li><li>・子どもたちに分かりやすく伝えるために、展示パネルなどを漫画的にしてはどうか</li></ul>
映像技術を駆使した展示	<ul style="list-style-type: none"><li>・『青空がほしい』は必ず残すべきコンテンツ</li><li>・滞在時間を検討したうえで、ニーズに合わせた内容の映像を複数用意する</li><li>・場所により、上映時間を検討すべき</li><li>・年齢が上がるにつれて長文を読むのが辛くなるので、いかに文字を減らすかが課題</li></ul>
展示物の外国語対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・貴重な映像資料・作品には外国語版を作成</li><li>・解説シートは通訳や来館者も後から見直せるのでよい</li><li>・スマートフォンを利用した解説システム導入を検討</li></ul>
演出効果を高めるための照明設備類	<ul style="list-style-type: none"><li>・第 1・2ゾーンは暗く感じる</li><li>・ストーリーを確認して検討していくべき</li><li>・ワークショップをするには暗い</li></ul>

## 展示改修基本方針案

●世界遺産との回遊性と情報発信

子どもや若者がより楽しく環境について学べるとともに、世界遺産との回遊性を高め、八幡東区東田地区の賑わいの創出や情報発信をおこなう

●シビックプライドの醸成

環境学習を通じた北九州市の都市としての魅力の再確認と、市民の郷土に対する誇りや愛着心の形成を図る

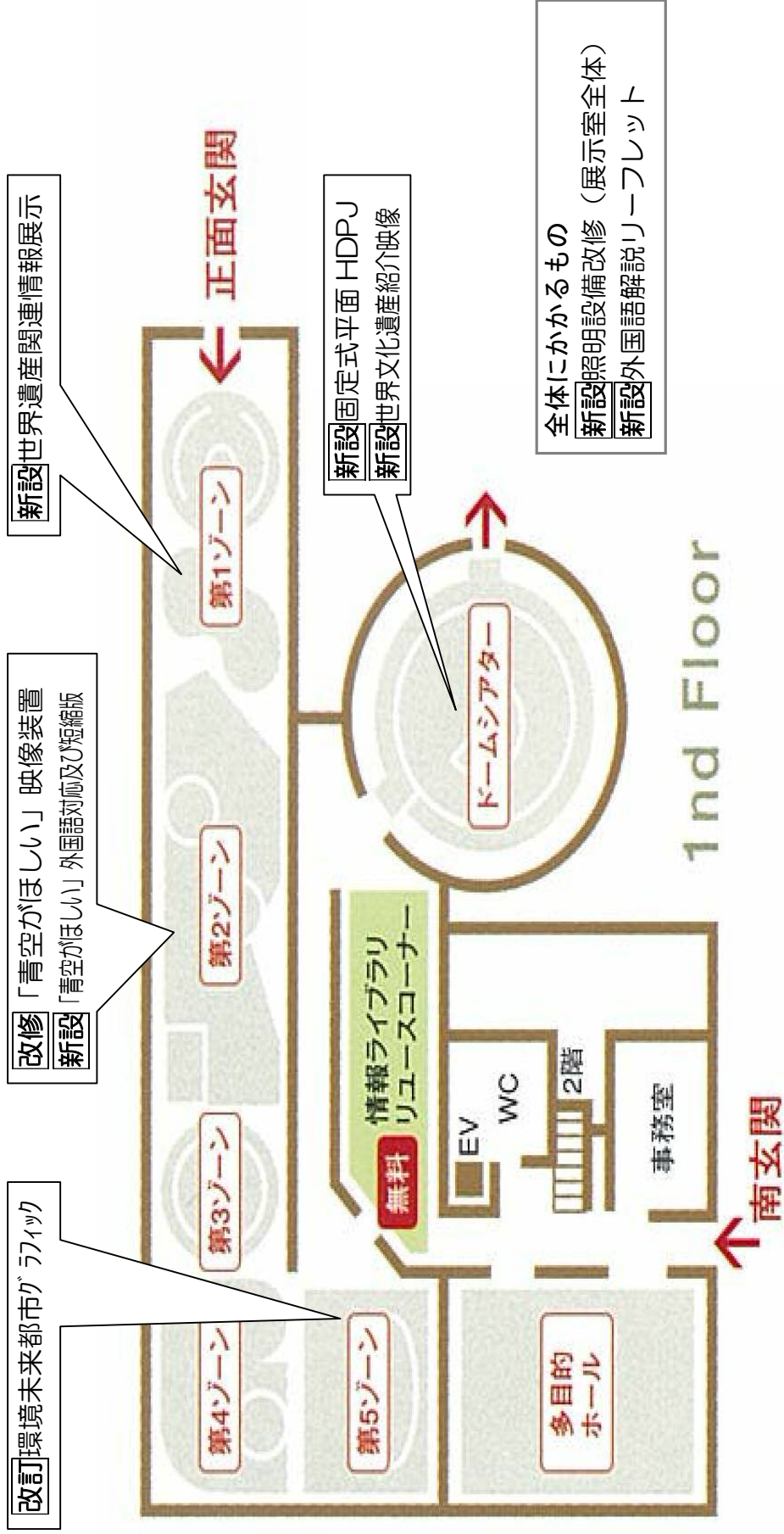
●展示物の外国人対応

リーフレットの設置等、外国人にも理解しやすい展示とする

《具体的な改修案》

場 所	展示内容（現在）	今回の主な見直し案
プロローグ	北九州市の豊かな自然を写真や映像で紹介	・外国語対応の充実 ・照明装置改修
第1ゾーン 北九州市の変遷	工業都市・北九州市の歴史を写真と工業製品で紹介	・世界遺産紹介展示物を検討 ・外国語対応の充実 ・照明装置改修
第2ゾーン 公害克服の歴史	公害克服の歴史を写真やジオラマ等で紹介	・『青空がほしい』ビデオ短縮版（外国語版含む）の導入 ・照明装置改修
第3ゾーン 地球環境	地球全体の環境問題を体験型の展示で紹介	・外国語対応の充実 ・照明装置改修
第4ゾーン 環境技術とエコライフ	3Rを通じたエコの紹介と循環型社会へのヒントを展示	・外国語対応の充実 ・照明装置改修
第5ゾーン 北九州市環境未来都市	先進的な取り組みや市民・企業の環境活動を紹介	・パネル展示の内容見直し ・外国語対応の充実 ・照明装置改修
ドームシアター他	映画の上映や体験学習が可能な多目的スペース	・映像や音響技術を活用した新しい映像展示機能（ソフトの充実を含む）の拡充（新規導入）

# 北九州市環境ミュージアムの改修（案）



## 会 議 録

- 1 会 議 名 環境ミュージアムの展示を考える会
  
- 2 議 題
  - 展示場内の照明に関する事
  - 展示物の外国語表記など外国人対応に関する事
  - 現状と合っていないパネル等の見直しに関する事
  - シオラマやビデオ映像の視聴時間短縮に関する事
  - ドームシアターの画像音響技術の導入に関する事
  - その他
  
- 3 開催年月日 (第1回) 平成28年 7月 6日 (水)  
(第2回) 平成28年 8月22日 (月)  
(第3回) 平成28年 9月13日 (火)
  
- 4 開催場所 北九州市環境ミュージアム 1階多目的ホール  
(北九州市八幡東区東田2-2-6)

## 5 構成員

NO	氏 名	所 属	分野
1	ちょう おん 趙 彦	西日本工業大学・准教授	有識者
2	あまいけ まゆみ 天池 麻由美	JICA九州・研修業務課長	国際研修機関
3	まなべ とおる 真鍋 徹	いのちのたび博物館・自然史課長	博物館
4	いずみ ゆかり 泉 優佳里	環境首都検定検討委員会委員	関係機関
5	さとう たえこ 佐藤 妙子	中原婦人会・会長	住民団体
6	いわもと ひろし 岩本 浩	環境テクノス(株)・環境コンサルタント部長	企業
7	あそう たかひろ 麻生 隆広	九州国際大学・学生	学生
8	つしま だいすけ 津島 大輔	教育委員会指導一課・指導主事	教育機関
9	とよさわ らくこ 豊沢 ラク子	環境ミュージアム・環境学習センター	市民ボランティア
10	うえた しょう 植田 詩生	リビング北九州・編集長	報道機関

(敬称略)

## 「第1回環境ミュージアムの展示を考える会」会議録

環境学習課：（環境ミュージアムの概要及び今回の展示改修の趣旨等についての説明）  
考える会の皆様には忌憚の無いご意見を出来る限り多く頂きたい。

---

### （施設内見学）

---

環境学習課：ご意見はまずはこちらがご説明したポイントについてお願いしたい。

構成員：照明が暗い。入口から2ゾーンが暗く、3ゾーンから急に明るくなっているのは意味あるのか。

構成員：今回の改修はどの年代をターゲットにしようとしているのか。また、来館者の属性（市内・市外・外国人・修学旅行による利用等）についてはどうか。

環境学習課：海外については中国・韓国・東南アジア諸国が多い。

修学旅行は昨年度が1月末時点で約850人。H26年度が1,100人、H25年度が1,500人である。

ミュージアム：前回H23年度のリニューアルのコンセプトが小学生4～6年生をターゲットにしており、展示物の高さ等、彼らの身長等を考慮している。

環境学習課：今回の改修についても、小学生中高年及び子育て世代が主なターゲットになると考えている。

構成員：いろいろ展示があり、情報が多すぎて、何を最も伝えたいのかが見えない。1・2ゾーンについても、公害を知らない世代が分かるよう工夫が必要。5ゾーンの市政パネルも子どもは見ないのではないか。ある程度の視点を定めただものでないと、展示の方向性が見えないのでは。

構成員：ミュージアムのどこを最もアピールしたいのか。

環境学習課：ミュージアムは本市の環境学習拠点施設としての位置づけがあることから、施設内の展示はそれぞれ必要なものである。しかし、子どもにまず興味を持ってもらうことが大事だと感じている。

構成員：ミュージアムで一番伝えたいものは何かというと、やはり第2ゾーン（公害克服の歴史）であると考え。もっと前面に押し出してもよいのでは。

構成員：アニメーション等により表現してもよいのでは。

構成員：通常、複数の施設を回るため、1箇所の滞在時間については事前に計画する。そのため、ある程度時間は限られることになるが、ミュージアムの来館者の滞在時間について知りたい。

ミュージアム：団体客は最大80分で、その内展示を回るのが40分である。個人客は平

均 1 時間である。個人では長い人では半日、短い人では幼少児連れの親子などはエコ工作のみをして帰ることがある。

構成員：リピート率は？

ミュージアム：小学生のリピート率は高い。近年は付近に住宅が建ち、子どもが何度も遊びに来る。他の一般客はそれほど高くない。

構成員：団体にとっては、展示スペースが狭いのでは。

構成員：多言語対応について、現在、説明パネルは標題のみの多言語対応であるが、どのように考えているのか。といって説明文を多言語で表記するのは無理があるとは思うが。

構成員：外国の博物館に行った際には、各展示物について数カ国語対応の説明ペーパーが設置されていた。そういったものがあれば、通訳同行の団体ではペーパーをみて訳す事も可能である。

構成員：パネル展示については説明文が長く、現代の若者は読まない。そのため、要約したペーパーもあったほうがよいのでは。

構成員：いのちのたび博物館では、ビデオにはテロップをつけることを検討中である。

構成員：4・5ゾーンの空間は必要なのか。別の展示することもできるのでは。

構成員：先ほどの話に戻るが、ミュージアムが最も訴えたいものは何か。

環境学習課：かつて日本の経済発展を牽引してきた本市が公害を克服し、なお現在においてもものづくりの街として継続できていることが本市の誇りでもあることから、今後も公害克服の歴史をしっかりと伝えていかなければならないと考える。

構成員：北九州市らしさというものを考えたとき、やはり第2ゾーンだと考える。公害を知らない子どもから経験してきた大人に至る全ての人に知ってもらべきだと考える。次に第5ゾーンの市の施策紹介のところで、他都市のある施設ではタブレットの巨大版のような装置で、子ども達に自由に扱って観てもらえる所もある。

ミュージアム：さまざまな展示により総花的とのご意見もあるが、逆に様々なオーダーに答えることも出来ると言える。この視点もある程度必要と考える。

構成員：子ども達に伝えるには文字よりも映像等の方が伝えやすいと考える。大学生も紙の書物はほとんど読まず、携帯で読むことが大半である。むしろ映像から情報を得ることに慣れている。

環境学習課：ARシステムはあるものの、子ども達が学校単位で来る際には、スマートフォンを所持していないため、あまり利用されていない。

環境学習課：ドームの活用方法について、皆様のご意見を伺いたい。

構成員：5～10分程度の映像2～3編を繰り返し上映してはどうか。館内を回ると足が疲れるため、所々に椅子等を設けることも必要なのでは。また、疲れを

癒す意味でも、映像を座って観られればよいのでは。

構成員：丸天井を活かしたプラネタリウムでの利用はどうか。北九州市の星空を映すなど。

環境学習課：桃園の児童文化科学館と重複するのではというところはあるが、イベント的にそのような活用も一つの案だと考える。

構成員：映像をドームの天井に映してもよいのでは。魚眼レンズ等を使った特殊機器により球面の壁体に映写することも可能である。

構成員：リクライニング式シートやそのまま横になったまま観る事ができればよいのでは。

構成員：「青空がほしい」については短縮版をドームシアターで放映するというのはいかがでしょうか。また、短縮版を2ゾーンで、本編をドームでというのもありではないか。

構成員：障害者対応の改修は考えているか。

環境学習課：改修にあたり、障害者対応は意識するが、今回は展示物の内容が主目的である。



## 「第2回環境ミュージアムの展示を考える会」会議録

### ○演出効果を高めるための照明設備の改修について

環境学習課：

- ・ 建築基本照明、展示照明についての増設
- ・ 照明器具増設に加え、操作の容易なプリセット調光システムの導入
- ・ 内装壁面の色彩変更

これらの改修案についてご意見を頂きたい。

構成員：照明の専門家の意見を聞くべきでは。照明といっても、個別のスポット照明から壁全体を照らすウォールウォッシャーなど種類があるので、場面場面の演出ごとに検討が必要。

構成員：前回議題で上がったが、もし現在の展示照明に意図がある（暗くしている）のならば、変更の必要はない。機械的な変更ではなくストーリーを確認の上検討してゆくべき。

構成員：現状では、第1第2ゾーンはやはり暗く感じる。

構成員：照明だけを明るくするのではなく、展示そのものも楽しくしないと意味がない。

構成員：展示は問題ないかもしれないが、現状はワークショップをするには暗い。

委託業者：現在検討している照明としては、建築照明と展示照明に分かれる。プロローグ～第3ゾーンまでは展示照明の増設、第4～ワークショップゾーンに関しては基本照明を扱える調光を組み込む計画を検討している。

構成員：来館者が来た時に点灯するようなセンサー式ということか。

委託業者：センサー式で来館者に反応して点灯する方式も検討中。LEDも安価になってきている。

構成員：それは展示照明か、基本照明か。

委託業者：検討事項に優先順位をつけていきたい。

構成員：センサー式は博物館や美術館などではあまり採用されていない。

委託業者：確かにその通りで、現状検討要素として挙げている。

構成員：ワークショップコーナーの照度は確保してほしい。高齢者と孫の来館者などから実際に声が上がっている。

### ○展示物の外国語対応の充実について

環境学習課：

- ・ 各展示物の解説シートでの対応

- ・貴重な映像資料・作品についての外国語版作成
- ・スマートフォンを利用した解説システムの導入

これらの改修案についてご意見を頂きたい。

構成員：（ノルウェーとスウェーデンの2施設の日本語版と英語版の解説シートの紹介）資料のように、外国語版の資料を置いておけば、直接の言語で理解できなくても理解の助けになる。国外からの来場者が多ければ置いておくとよい。

構成員：日本語版も置いてあれば、持ち帰った人があとから見返せてよいがどうか。

環境学習課：外国語対応のみの検討であったが、管理者側で対応できるのであればよいと思う。

構成員：今の時代は、紙出力資料を大量に置くのはエコではないという考え方もある。

構成員：PDFにしてHP上で公開する方法もある。希望者は自由にダウンロードできるようにしてはどうか。

構成員：外国語対応ということであるが、障害者対応も必要ではないか。現状は未対応では。

ミュージアム：現状、スロープなどの施設としての対応はしているが、他は人的対応にとどまっている。障害者に対しては、解説員が必要かどうか確認しているが、ほぼ不要との回答が返ってくる。

構成員：いのちの旅博物館での対応は？

構成員：展示フロアマップで対応しているものの不十分。しかし展示物すべてのフォローは不可能。どこに行けば何が観られるかの紹介程度。健常者の同行が前提となっている。また、すべてに点字をつけると健常者には読み辛くなる。障害者対応は、今回の改修計画で着手すると中途半端になるので、別の機会に改めるほうがよい。

構成員：今回は無理でも、いずれ導入の方向で検討してほしい。

構成員：スマホ利用による音声解説などを導入すれば、障害者のみならず健常者にも対応できるのでは。

構成員：北九州のネット普及率は低く、ハガキ・FAXがまだ使われているところも多い。デジタル活用はキーになってくるが、目立つようにすることが大事。

構成員：スマホがないと情報にアプローチできないというのは避けてほしい。誰でも同じ情報が共有できることが望ましい。外国語対応としては、外国人客のスマホ利用率が不明。

構成員：JICAでは、来日者のスマホ普及率が高いが、国内の子どもには不向きのはず。

構成員：学校では持ち込み不可である。

構成員：子どもの来館者は親子連れが中心か。

環境学習課：子どもの来館者のほとんどが学校団体による。

構成員：学校内では、PCは1クラス分程度（40台程度）あるが、授業以外では公

開かれておらず、また回線も遅い。HP 出力も難しいのが現状。

構成員：現状の展示は、パネルが難しすぎて子どもにはわかりづらい。また文字量も 200 文字程度が望ましい。スマホで対応よりも、内容・文章量ともに子ども用のパネルを増設すべき。海外からの来館者でも、子ども向けの文章なら理解できるという人もいる。

構成員：大人用のパネルの下部に子ども用のパネルを追加すれば、目線としても子どもに見やすく、また車椅子の来館者にとっても読みやすい高さとなる。

構成員：公害について学習しにくる子どもたちにとっても、現状の展示内容は難しいようだ。

構成員：だが、子ども用の言葉に翻訳する作業が難しい。

構成員：何年生に焦点を当てるか、全部ではなく大項目や主たるテーマに絞ることが必要。

構成員：美術館のように、200 文字程度の短い解説にまとめると子どもたちにもわかりやすい。

## ○ドームシアターの活用について

環境学習課：

- ・第 2 と第 5 ゾーンの映像コンテンツの内容入れ替えとドームシアターの活用の見直し
- ・ドームシアター用に、来館者のニーズに合わせた 5～10 分程度の映像を複数用意
- ・ドームシアター内でプラネタリウムなど、北九州の季節ごとの自然を紹介、ライブ映像を天井投影するなど、ドームを活用した映像システムの設置

これらの改修案についてご意見を頂きたい。

委託業者：プロジェクター据え置き・高解像度平面スクリーン方式と、フィッシュアイレンズで撮影しドームスクリーンに投影する方式の 2 種に大別できる。プロジェクター式は現状のもののグレードアップ、フィッシュアイレンズは輝度が落ちるがドームを生かせる。

現行の平面スクリーンに 3D プロジェクターで投影する方式はメディアに汎用性があり、ドームスクリーンにマルチプロジェクター 3 台で投影する方式はコスト高だが実現可能。

ドームスクリーンに HD プロジェクター投影する方式及び全天周ドームスクリーンに HD プロジェクターで投影する方式は検証が必要。

構成員：総務省でも 4K 導入が主流。今後を考えると HD よりも 4K がよいのでは。200 インチスクリーンの価格はいくらか。

委託業者：150～200 万円程度である。

構成員：椅子も現状のものではなく、リクライニング式を導入する費用を考える必要があるのでは。

構成員：据え付け式の椅子だと、コンサート時の対応が難しい。

構成員：できれば平面スクリーンよりもドーム式を活かしたい。

構成員：現状のものやより多くのコンテンツに対応するのは平面スクリーンだが、せっかくなのでドームを活用したほうがよい。

構成員：コンテンツ制作費も必要だろう。リピーターにはコンテンツの更新が重要。更新・メンテナンスのしやすさも重要では。また、ドーム型にすると、通常の映画の見え方はどうなるのか。

委託業者：フィッシュアイレンズ用に撮影した映像でないとうまく再生できない。しかし、フィッシュアイ搭載のカメラも安価に入手可能になってきているので、分野としては期待できる。

構成員：フィッシュアイレンズは3万円程度で、4K映像が撮影できるものも出てきている。

構成員：ドームでは公害記録映画「青空が欲しい」をやはり観たい。

構成員：コストを度外視すれば、200インチスクリーンでドームを覆うように設置し映像を連動させることも可能ではないのか。

構成員：コンテンツをどうするのか、何を伝えたいのかを決めないと機材だけでは決まらない。「青空が欲しい」は必ず残すべきコンテンツ。場所により上映時間を考えながら検討すべき。その他の過去の北九州の映像コンテンツも残したいならそれも考慮して検討が必要。

構成員：特定の映像コンテンツに限定してしまうと、更新が難しくなる。目玉コンテンツとして1つくらいあってもよいが。

構成員：ドームスクリーンにHDプロジェクターで投影する方式及び全天周ドームスクリーンにHDプロジェクターで投影する方式はプロジェクターの位置を変更するだけで使用可能か？

委託業者：プロジェクターは共通だが、レンズを交換する必要がある。

構成員：リクライニング式の椅子でないと難しいか。

委託業者：ドームスクリーンにHDプロジェクターで投影する方式及び全天周ドームスクリーンにHDプロジェクターで投影する方式については、通常の映像の歪みの調整は可能か。

構成員：ドームスクリーンにHDプロジェクターで投影する方式は調整で可能だが、全天周ドームスクリーンにHDプロジェクターで投影する方式だと、新たに専用の映像を制作しないと上映できない。

委託業者：ドームスクリーンにマルチプロジェクター3台で投影する方式は1面だけを使用すれば、四隅にゆがみが生じるものの矩形に近い映像にできる。

## ○映像コンテンツについて

環境学習課：

- ・上映時間を考慮し、ゾーン内では短縮版、ドーム内で全編を上映する
- ・外国語版の作成

他に、ご意見があれば頂きたい。

構成員：ミュージアム側で、こんなものを見せたいという要望はあるのか。

ミュージアム：「青空が欲しい」を Youtube で公開してはどうかという意見が内部にある。ターゲット層を大人・子どもに分けるか、それぞれどの年齢層に合わせるのか、また興味の度合いなどをレベル分けした形で構成を考えたい。全く環境問題に興味がない人と、ある程度知識もあり勉強したいという姿勢の人とでは内容が変わってくる。全く興味のない人に対してはイメージ先行のものになるし、勉強のために来館する人に対しては、掘り下げたものでなくてはならない。当館の一番のウリは人であり、これまで映像を主体にガイドが解説してきたが、(ガイドの解説なしで)映像だけで理解できるようなものとなれば、コンテンツを考え直す必要がある。

構成員：子どもにも解りやすいパネルや、絵本など興味を持てる展示があるとよい。

ミュージアム：どこを残しどこを変えるかを考えていきたい。これまでも子どもに解りやすいように、大判の写真を中心に据えてガイドをしてきたが、これからは、ガイドなしでも子どもに伝わるようなものが求められるのか。

構成員：詳しく知るためのもの、興味を持ってもらうためのものの両方が必要。次のステップへと進めるようなコンテンツが必要。

ミュージアム：設立当初のコンセプトとして、「語りすぎない」「答えを置かない」というものがあったが、映像でどう伝えてゆくべきか。

構成員：音と映像の中にも「気づき」があるはず。

ミュージアム：15年経った今だからできることもあると思われる。

構成員：誰かと考える(ガイドによる解説有)と、一人でも考えられる(自己解決できる)ものが交互にあるとよいのでは。映像だけでわかるものもあってもよいと思う。

環境学習課：今回の更新内容としては、大掛かりな変更ではなく、現状に追加することでプラスアルファとなるような新たな意義の追加を考えたい。

構成員：広島県の映像体験の例で、街中を歩きながら原爆投下当時を追体験できるようなものもある。北九州市を巡ってるようなものもあってもよいのでは。

環境学習課：北九州市の自然環境や、レポートして飽きないものを検討していきたい。

## ○その他展示内容に関すること

環境学習課：これまでの意見内容以外で、何かお気づきの点などあればご意見を頂きたい。

構成員：水の重要性やフードマイレージの展示があるが、これからの環境問題では水

が非常に重要。食品を輸入することは水を輸入することになる。自給率を上げるためには水の確保も必要であるという情報を紹介すべき。また、リサイクルは重要で、再生品などの購入が推奨されてはいるが、実際にはコスト高のため売れ行きがよくない、といった悪循環についても子どもに伝えてゆくなど、個々の事象の紹介だけではなく、そういったつながりに関する解説があるとよい。ワークシート形式でもよい。

## 「第3回環境ミュージアムの展示を考える会」会議録

### ○ドームシアター映像システムについて

#### 参考機器によるデモ投影実施

構成員：現状での観覧では2～3分で首が痛くなる。また、全周投影にすると、全てを観ることができない。高解像度の映像に慣れているため、特に自然などの映像で解像度が低いものでは感動がない。映像の利点を活かすならば、世界遺産に関して、普段立ち入れない箇所の映像を流すといいのではないか。

構成員：解像度が低いため、自然の魅力が伝わりにくい。シートなどを敷いて仰向けの状態で観たい。

構成員：今回のデモ映像はドーム用に作られたものか。端がぼやけていた。

委託業者：ドーム用の映像ではないが、いずれにしても端の方は視覚的にも見えにくいいため、画質的には考慮しない場合が多い。

構成員：暗さが気になる。

委託業者：今回のプロジェクター輝度は7,500lm(ルーメン)で、機種により10,000lmまで対応可能。4Kプロジェクターにした場合は、解像度が今回の1,600ピクセルから2,000ピクセルに向上するが、購入価格が高額にはなる。輝度が上がれば画質は良くなる。

構成員：個人的には早々に映像酔いしそうだったが、夜景クルーズでの工場地帯など、現在の北九州市がきれいになったとアピールできるものを紹介するとよいのではないか。

構成員：リクライニング式の椅子を導入することについてはどうか。(ドームに導入する場合は)1クラス分(45人⇒45脚)入るのか。

委託業者：椅子については検討する。

### ○世界遺産登録に関する展示について

環境学習課：世界遺産登録関連の展示について、すでに展示している近隣施設のいのちのたび博物館博物館や北九州イノベーションギャラリーとの兼ね合いもある中で、環境ミュージアムがどのように観せたらいいのか意見を頂きたい。3館それぞれで互いに(回遊性のある)誘導をしていくのもよいと考えている。

構成員：他の2館ではどのような展示を行っているのか。

構成員：いのちのたび博物館では世界遺産に関するモノ資料はほとんどなく、記憶遺産である地元画家が描いた炭鉱画や、明治時代の街の様子などを記録した写真が中心である。

環境学習課：新日鉄住金は現在稼働中であるため、実際の機械や資料などは企業秘密に当たるのか、展示が難しいと聞いている。現状は、市の文書館所蔵資料が中心となっている。環境ミュージアムとして、何をどう見せればよいのか悩むところである。

構成員：環境ミュージアムとして何をみせるのかよりも、東田に来れば北九州市の全てが分かるという方向性がよいのでは。個々の館としてでなく、東田をどう見せるのかという視点で考えるべき。

構成員：以前、3館連携ツアーがあり、各館のガイドと一緒に3館を巡った。東田を知ってもらおうツアーとしてはとても良かったため、年1回開催してもよいのではないか。

構成員：3館がそれぞれ得意分野と施設設備をセットで考えて役割分担し、一緒に進めてはどうか。

構成員：環境ミュージアムにはドームシアターがあるので、ビジュアル面を担ったらどうか。通常入ることの出来ない場所を映像で紹介するなど。

また、第2ゾーンの終わり辺りであれば、世界遺産登録関連の紹介ブースを設置できないか。

北九州市に官営八幡製鉄所が建設された理由として、地盤が強固で地震も少なく、石炭を近隣より供給できた自然環境が整っていたという、環境面からの切り口での世界遺産登録関連の紹介があってもよいのではないか。

環境学習課：展示に関して、いのちのたび博物館と北九州イノベーションギャラリーでの取決めはあったのか。

構成員：当初は互いの特別展をどうするかという協議があったと思われる。世界遺産登録決定前までは協議が多かったものの、決定後はとくに協議を行っていない。北九州イノベーションギャラリーでの常設展示は難しいのではないか。

構成員：北九州イノベーションギャラリーでの産業遺産群の展示や、いのちのたび博物館の世界遺産登録関連の歴史コーナーなどは違和感がない。

環境ミュージアムは「世界に貢献する北九州市」のコーナーがよいのではないか。

世界遺産登録を受けているインドのタージマハルは、環境規制を敷いて車両及び関係者以外の者の進入・立ち入りを規制・制限し、スウェーデンの森の墓地（スコグスシュルコゴデン）は死んだ人は自然に帰るというコンセプトでそれぞれ環境保護に取り組んでいる。

北九州市も環境に取り組む他の世界遺産を紹介する中で、同様な取組から現在の街になったことを紹介できればよいのではないか。

構成員：（私たちは）普段観ることができない映像は観たくなるもので、自分が携わったNHKの「地球大紀行」という番組も、人が通常立ち入ることが出来ない世界の文化遺産を紹介するものだった。



(旧八幡製鉄所関連施設で)稼働している施設には(関係者以外)立ち入ることが出来ないので、歴史と合わせた映像のコンテンツ化が最もよいのではないか。

環境学習課：新日鉄住金も大手の一企業であるため、情報漏えい防止のための体制はかなり厳しい。製鉄所関連の展示についても所有権の扱いには細心の注意が必要で、民間のツアーでも、閉鎖した旧本事務所の見学までに留まっている。

構成員：そうであるのならば、製鉄所関連の展示はかなり厳しいのではないか。

### ○その他、課題ごとの改修方針について

構成員：(展示解説の)文章だけ読むと展示内容は難しく感じるが、ガイドの解説を聞きながら観ると分かり易い。展示改修も大事だが、この仕組み(人が中心となって観せることが環境ミュージアムの当初からのコンセプト)こそ環境ミュージアムの特色なので、今後も人材確保が重要ではないか。

環境学習課：今後、これまでの意見を基に検討するが、全ての意見を反映することは難しいと思われる。その中でも出来る限り意見を活かしていきたい。